

日本臨床検査専門医会 2024 年度 第 1 回理事会議事録

開催日時：2024 年 5 月 18 日（土曜日）15 時～17 時 00 分

場 所：日本臨床検査専門医会事務局・ZOOM によるハイブリッド会議

現地出席：ㄨ谷理事長、山田副理事長、福地、鯉渕、松下各常任理事
東條、菊池各監事

WEB 出席：村上(庶務担当)、増田(会計担当)、尾崎、幸村各常任理事
藤井、植木、浅井、山田、山崎、北中各理事

欠 席 者：田部常任理事、橋口理事

事 務 局：大和田

Web 会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、的確な意見表明ができることが確認されたため、定刻、ㄨ谷理事長は議長となり、開会を宣し、議事に入った。

<報告事項>

1. 各種委員会報告（前回理事会以降の報告）

1) 情報・出版委員会

福地委員長により、添付資料 1 に基づき報告があった。まず、今年度発行予定の JACLaPNEWS3 号について、スケジュールと、巻頭言について説明があった。近日発行分については、提言ではなく、原稿が集まっている「会員の声」を掲載予定。なお、150 号分以降の提言が未収集のため、委員会で執筆者を検討するが、推薦いただける方がいたら教えて欲しいと議場に呼び掛けた。続いて LabCP については、金子委員を主幹として進行している。昨年年次大会の内容が濃かったため、まとめた内容の紹介を検討している。現在原稿収集中で、41 巻 1 号、42 巻 1 号を合併号として発行、発送するよう準備をしている。日本臨床検査所協会誌ラボの担当ページについても資料の通り、順調に掲載が進んでいる。本会ホームページも整備し、きれいに掲示された。JACLaPWIRE については、東條先生から情報を受けた新規掲載項目について、情報を発信している。検査医学会と重複しているが、今後も、医学会、専門医会どちらからも情報がとれるように連携していきたいと発言があった。

2) 教育研修委員会

鯉渕委員長により、添付資料 2 に基づき報告があった。2024 年度教育セミナーは資料通り順調に進んでいるとして、講師および合格体験談を担当された先生方への謝辞を表した。受講者数は最終的に 73 名になった。また、初めての試みとして、受講者と合格者のつどいを企画した。WEB 開催により、受講者同士の交流が少なくなっていること、一人で勉強し、不安を感じ専門医研修を離脱してしまう専攻医がいるのではないという声が聞こえたことにより、受験者と近年合格者の交流を目的として企画したものである。

教育セミナー申し込み時、参加希望アンケートをとったところ 20 名程希望者が集まったため 5 月 30 日木曜日、ZOOM による開催を決定した。鯉淵委員長が司会を務め、まず、受講者から事前に収集した質問に合格者が答え、残りの時間は受講者から追加の質問を受けるなど、ざっくばらんな意見交換を期待している。理事の先生方にも URL を送るので、時間が許せば参加して、意見をいただきたいと話した。

次に、教育セミナーについての日本臨床検査医学会との取り決めについて、前回理事会以降の経緯について説明があった。今後、検査医学会の新理事会にて「学会と専門医会の連携」について協議されることになったとの報告を受けており、専門医会教育研修委員会としては、取り決めの文書化は保留とし、検査医学会の見解を待つことにしたと述べ、報告を終えた。

議場より、受講者同士の交流を考えると、教育セミナーを対面開催に戻すことを考えても良いのではないかという意見があがった。開催場所について、以前、賛助会社による会場提供の話もあったため、それらも含めて今後検討していく。

3) 資格審査・規定改定委員会

田部委員長に代わり村上庶務担当理事より、添付資料 3 に基づき前回理事会以降、18 名の新入会員を審査し全員承認し、理事長へ入会承認依頼をした旨報告があった。現在 1 名審議中である。最近、教育セミナー受講目的で入会希望をする傾向が多々みられる。

4) 広報・ネットワーク委員会

尾崎委員長より、資料に沿って説明があった。直近の活動として、日本臨床検査医学会の活動である「レジナビフェア」に専門医会からポスターを提供する。

また、振興協議会広報委員会で、こども霞が関見学デーの開催について打ち合わせをしている。本会からも参加を予定する。

10 月の JACLAS EXPO もポスター提供で参加を予定。

11 月 11 日記念日つなぎ委員会は昨年同様山口委員が担当を予定している。

レジデントノート「検査の TiPs！」連載は 100 回で一度打ち切り予定のため、終盤を迎えている。執筆者未定の号に関して、理事会の先生方に紹介していただけないかとの発言があった。今後の企画に関しては、検査医学会と協議を予定している。

ネットワーク BBS については、前回理事会で報告した通り、今年度の IDPW を変更し、すでに会員に送付済。今後、委員会では、ホームページの内容について会議を開催し、改良を検討する予定(アンコンシャスバイアスにかかっている可能性などについて)。

〆谷理事長より、他学会においてもホームページの改良はアクセス増につながると報告を受けているため、ぜひ検討して欲しいと発言があった。

5) 渉外委員会

幸村委員長資料 5 に基づき報告をした。第 41 回振興セミナーは 7 月 26 日金曜日、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて対面開催とし、久しぶりに情報交換会も開催を予定している。プログラムは一部未定となっているが、第一部は「診療報酬改定に

ついて」、第二部は「新型コロナウイルスの加古・現在・未来」をテーマにしたい。なお、座長につい、〆谷理事長、山田副理事長へ依頼したいとの発言があり、両名は承諾した。また、〆谷理事長より情報交換会について、企業の方を招くため、内容の検討をするようにとの発言があった。議場より、早めに広報をすべきとの指摘があがり、事務局が早々に広報活動を確認した。

6) 保険点数・データシステム委員会

松下委員長より添付資料 6 に基づき、令和 6 年度診療法正改訂について、検査医学会と合同で振興協議会に報告をあげ、意見を集約して提出されたと報告があった。主な内容は資料の通り。今年度より、施行は 6 月 1 日からとなった。今回改訂の特徴として、人件費分の手当、医療 D X、感染症の対応という 3 つの柱が大きく取り上げられた。増点されたものもあるが、生化学検査項目を中心に、減点されたものも多数あり、日常使われている検査項目が多いため、影響が少なからずあると説明があった。総じて、臨床検査の検体検査の項目から見ると、横ばいか若干減点が多い印象があるが、医療 D X、医療情報分野への加点が認められることは注目すべきである。

令和 8 年度診療報酬改定に向けてのスケジュールが資料の通りほぼ確定している。年明けまでには各学会からのアンケートを集め、振興協議会等を通じ、企業からの要望も併せ、必要に応じて調査をする流れとなる。理事の方も、要望があれば寄せて欲しい。次に、データシステム関連について言及した。国としては医療 D X 推進として動いており、その中で臨床検査項目に関しては、資料に掲載されている HL7-FHIR の導入がほぼ決定している。検査データを共有するソフトウェアであり、世界基準である。検査室に導入するための検査コードマスターについても資料に示している。検査医学会のホームページに詳細な掲載がある。JLAC センターが立ち上がり、企業側の協力も受け、標準化に向け進んでいる。

2. 第 3 回年次大会の準備状況について

尾崎会長より、添付資料 7 に基づき報告があった。WEB による打合せで、開催に向けて問題点を洗い出している。抄録集はチェックをしている段階で、来月上旬には届けられる予定。予算面が膨らんでいるため、削減できるものを検討。事前参加登録受付中のため、理事の先生方も早めに参加登録をお願いしたい。会場付近では、6 月を過ぎると宿泊の確保が困難になりうるため、会員メール等で呼び掛ける予定。来月半ばに開催する最終打合せで、ほぼ準備が整うと考えている。議長より、事前登録を促す会員メールを今月・来月 1 回ずつ予定するようにとの発言があった。その他、臨床検査医学会にもメール依頼を検討する。議場より、今回の大会においてはホームページの製作費用が他と比較して高額であると指摘があった。今後の大会においては相見積もりをとることが必要であることを確認した。

3. 日本臨床検査医学会臨床検査専門医・管理医審議会委員選任について

〆谷理事長が資料 8 を示し、2024・2025 年日本臨床検査医学会臨床検査専門医・管理医審議会本会からの代表委員について、医学会からの要望もあり、山田副理事長を推薦することになったと、報告があった。

4. 第 71 回臨床検査医学会学術集会における講演・シンポジウムについて

山田副理事長より、添付資料 9 に基づき臨時社員総会講演会について、説明があった。前回理事会で、共通講習 B の単位認定取得が可能な講演会を目指すことで意見が一致したことから、「両立支援」の分野を検討し、大阪産業保健総合支援センター所属の永田庸子様に講師を依頼し、すでに承諾を得ている。

続いて、共催シンポジウムについて、松下常任理事より報告があった。テーマは「臨床検査医からみたゲノム医療および医療 DX への取り組みと課題(仮題)」で、臨床検査医学会側にも報告済み。仮題としているがこの内容でほぼ決定している。将来的に国が推進を検討しているゲノム医療について、保険点数・データシステム委員会委員湯地先生とともに座長を務め、資料に掲載されている 4 名の演者からも承諾を得ている。

<審議事項>

第一号議案 2023 年度決算・事業報告の承認

議長は 2023 年度決算について、増田会計常任理事に説明を求めた。最初に、正味財産増減計算書が示され、予算と乖離のある費目について説明があった。見込みよりも新規会員が多く、また、新規賛助会員があったため会費収入が増えている。LabCP の発行が無かったため広告収入がなかった。教育セミナーの参加費は増額。生涯教育講演会の参加費については、年次大会の参加費を徴収する際、生涯教育講演会の金額の明示がなかったため、年次大会収入に含んでの計上となった。なお、年次大会の収入予算は予算書をもとづき計上したが、実際には広告収入や参加収入が多かったため大幅な黒字となった。支出に関し、まず庶務経費において、人件費は引継ぎの関係で決算額が多いが、来年からは 1 人体制となるため落ち着く予定。設備費は使用継続困難な PC の購入額が計上されている。また、顧問料について、税務申告など業務量の増加に伴い増額となった。次に事業経費について、前述通り、会誌の発行が無かったため印刷費の計上が少ない。年次大会費についてオンデマンド費用が見込みより安価だったため予算より少なく済んだ。会議費については、対面による会議が増えたので交通費の計上があったが予算よりは少ない結果となった。宿泊費は交通費に含まれたため、計上が無く費目の削除を検討する。総じて、2023 年度は約 127 万円の黒字となった。

続いて、現金預金残高・貸借対照表を示し、未払金、前受金などを説明の上、2024 年 3 月 31 日時点での本会財産が報告された。

次に、村上庶務担当常任理事より、事業報告が資料に沿って説明された。会員数、刊行物、会議、行事等について順番に報告があった。報告を終えた増田会計担当常任理事、村上庶務担当常任理事は議場に承認依頼をした。

議長は、審議に先立ち、東條監事に監査報告を求めた。東條監事は、5 月 8 日に事務局にて監査を実施し、添付の監査報告書通りの監査結果報告をした。共に監査を行った菊池監事も同内容の通りであると報告した。

このあと、2023 年度決算・事業報告の承認について議場に諮ったところ、満場異議なく原案どおり承認された。

第二号議案 社員総会の招集

議長が添付資料 11 に基づき、6 月開催の第 3 回年次大会時に、2023 年度事業報告および決算の承認、有効会員の追加承認を目的とする定時社員総会の開催の必要について説明し、招集につき議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

第三号議案 「選挙管理委員会」委員および委員長の選任

議長は、現役員の任期が 2025 年社員総会終了時であることを確認し、選挙を行うために選挙管理委員会委員長、委員を選任する必要があると説明した。議長より、次回理事会で、候補者を挙げ、理事会承認を予定としたいと発言があり、満場異議なく承認された。

第四号議案 「2026 年度第 5 回の年次大会長」の選出

議長より、2026 年度第 5 回の年次大会長について、松下一之常任理事を推薦したいとの発言があった。議場に諮ったところ、満場異議なく承認され、松下常任理事の承諾を経て決定した。

第五号議案 日本臨床検査振興協議会「2024・25 年度役員及び委員会委員推薦」について

議長が資料 13 を示し、協議会の意向として基本的には留任を希望し、叶わない場合は新メンバーの推薦をして欲しいと連絡があったと伝えられた。それに基づき、現委員の意思確認をした旨報告があった。診療報酬改定小委員会委員が佐藤尚武先生から松下弘道先生へ変更、広報委員が木村聡先生から後藤和人先生へ変更した以外は留任として資料に記載の通り推薦したい。本件につき、議長が議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

第六号議案 第 3 回年次大会「シンポジウム」動画の二次利用について

議長より、第 3 回年次大会尾崎会長に説明が求められた。尾崎会長は、日本臨床検査医学会遺伝子関連検査専門医認定制度管理委員会より、学習用コンテンツとして、第 3 回年次大会の遺伝子関連のシンポジウムの動画の二次利用をしたいと連絡があったことを報告した。本件につき、議長が議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

第七号議案 教育セミナー開催時期変更について

議長より、教育研修委員会鯉淵委員長に説明が求められた。教育委員会では、現在 5～6 月に開催されている教育セミナーの時期を秋にずらすことが検討されている。その理由として、受験者のみならず専門医既得者の再学習に目的を広げたいこと、試験委員や、実行委員と講師が重なるのを防ぐことなどである。ただし、試験直前ではないため、受講生が減る、ひいては、新入会員が減るなどの懸念事項もある。

議長が、議場に意見を求めたところ、直前ではなく、秋から準備をしてもよいと思うので賛成という意見がでた。来年以降受験を希望する者の入会もあるため、時期を変えても教育セミナー受講を目的とする新入会者はいると思われるとの発言があった。また、現在、オンデマンド配信であるため、秋に配信したものを春に、もしくは逆にして、年 2 回開催、さらに更新単位をつけることを検討すれば需要が増えるのではないかという意見がでた。ただし、経費の増加について検討が要される。開催形式において、対面になったとしても学会放送に録画をしてもらい同じ内容

を、時期をずらしてオンデマンド配信することも可能ではないかという意見もでた。議長より、5月30日「つどい」開催時、受講者からの意見を聞いてみたらどうかと発言があった。本件は審議を保留とし、引き続き検討を重ねるということで、満場異議なく意見は一致した。

第八号議案 新しい会計管理システムに係る経費について

議長より、増田会計担当常任理事に説明が求められた。前回の理事会にて、(株)翔葉の新しい会員管理システムの採用が承認された。それを受け、見積りを入手したので提示する。2024 年度予算承認後に検討し、予算に含まれていない支出となるため、本理事会で承認を仰ぎたい。

本件につき、議長が議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

第九号議案 次回理事会開催について

〆谷理事長より、年次大会時に理事会開催について、年次大会出席予定の理事が多いため、対面で成立する理事会となるため、活発な意見交換をするためにも開催を検討したいと発言があった。今回の理事会で、審議持越しも出たため、引き続きの審議と、残りの時間は意見交換の場とすることを提案した。本件につき、議長が議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

以上をもって議事・報告の全てを終了したので議長は閉会を宣した。

以上、議事・報告事項について本議事録を作成し、出席理事長及び出席監事は次に記名押印する。

2024 年 12 月 28 日

理事長 谷 直人 印

2024 年 10 月 6 日

監事 菊池 春人 印

2024 年 10 月 6 日

監事 東條 尚子 印